

武庫川総合治水対策の効果量（試算）

対策施設		効果量	主な試算条件	
流域対策	学 校	検討済 12m ³ /s	対象箇所：114箇所 治水容量：38万m ³ （青野ダム流域以外の流域内のすべての学校） オフサイト貯留（敷地内の降雨をグラウンドに集水し、オリフィス構造でピーク降雨をカットする）	
	公 園	検討済 2m ³ /s	対象箇所：80箇所 治水容量：13万m ³ （青野ダム流域以外のすべての公園127箇所から選定） 公園（開設）面積0.1ha以上（公園内のため池が公園面積の多くを占めるものは除外） 基本的にオフサイト貯留、大規模なものは地形状況によりオンサイト貯留（グラウンドに降った分だけ貯留）	
	た め 池	検討済 57m ³ /s	対象箇所：108箇所 治水容量：140万m ³ （満水面積5,000m ² 以上、流域面積0.1km ² 以上、青野ダム流域以外、水深1m分だけ治水利用）	
	水 田	検討済 28m ³ /s	対象面積：1,539ha 治水容量：192万m ³ （貯留水深は畦畔嵩上げ無しで15cmに設定、面積は圃場整備面積から減反面積、本地率（実際に作付け出来る面積）を考慮し設定）	
	防災調整池	検討済 12m ³ /s	対象箇所：176箇所 治水容量：147万m ³ （流域内のすべて）	
	各戸貯留・雨水浸透型施設	検討済 数値化しない	以下の対策を進めるが、洪水時における効果が保証されないため。 （浸透施設） 流域内の50,000戸に浸透ますを設置した場合、効果量は9.72m ³ /sとなる。（概算値であり対策施設の箇所等の特定ができない） （各戸貯留） 各戸に雨水貯留タンクを設置し、治水活用として利用	
	そ の 他 （駐車場、棟間、大規模開発）	検討済 数値化しない	対策を進めるが、効果量の数値を算出するのが困難であるため、数値算入はしない。	
河川対策	遊水地	（1）結果として湛水 検討済 0m ³ /s ~ 39m ³ /s	①数値化しない ②上流域農地、掘削無し、面積：108.3ha（13箇所）、治水容量：451万m ³	
		（2）公共施設・都市施設 ① 0m ³ /s ~ ②-1 43m ³ /s	②-1中流域公共施設、掘削、面積：5.3ha（1箇所）、治水容量：22万m ³	
		（3）河川施設 ① 42m ³ /s ~ ② 228m ³ /s ~ ③ 298m ³ /s	①中流域に1箇所設置（面積：12ha 治水容量：30万m ³ 掘削有り） ②中流域に2箇所設置（面積：64.1ha 治水容量：205万m ³ 掘削有り） ③中流域に3箇所設置（面積：77.3ha 治水容量：273万m ³ 掘削有り）（3箇所個々の調節容量A：77m ³ /s、B：152m ³ /s、C：74m ³ /s）	
	利水ダム	今後検討 ① 0m ³ /s ~ ② 417m ³ /s	①採用しない ②6つのダム（青野ダム：116m ³ /s、深谷池：11m ³ /s、山田ダム：12m ³ /s、千苅ダム：189m ³ /s、丸山ダム47m ³ /s、川下川ダム42m ³ /s）を2m水位低下→治水転用	
		新規ダム 今後検討 ① 0m ³ /s ~ ② 637m ³ /s	①採用しない ②洪水調節容量：1,125万m ³	
	河道対策	ケースA	甲武橋地点3100m ³ /s（河道分担量）	河床掘削のみではほぼ流下能力の確保が可能である。
		ケースB	甲武橋地点3500m ³ /s（ // ）	ケースAと比較して低水路拡幅幅が増加するが、引堤は部分的である。
ケースC		甲武橋地点3700m ³ /s（ // ）	ケースBと比較して低水路拡と引堤が若干増加する。	
ケースD		甲武橋地点4400m ³ /s（ // ）	他のケースと比較して低水路拡幅と引堤が大幅に増加する。	

※効果量は ①H16モデル降雨を対象とした数値である。（甲武橋地点、青野ダム有りのケースから各流域対策施設により流出抑制された流量を示している。）
②各対策施設の単独効果量である。
③現時点（H18.3.21）での試算値である。